

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 松葉福祉会
施設名	福島郷野目こども園
報告者（役職）	内藤 則子（副園長）
住所・連絡先	福島県福島市郷野目字上 14
	☎ (024) 563-4740 E-mail gownome-kodomo@fk-east-hoikuen.jp

○タイトル（保育計画）

輝く太陽のように・・・めざせ！『ごうのめわんぱくだん！』

○主な助成備品

平均台（木製）、ステップハードル、メッシュトンネル、玉入れセット（紅白玉入れボール）、バルーン、リトルコーン、鉄棒（屋外）、スーパーフォーミング（カラー積み木）、マルチパネ

1. 保育計画策定の目的

当園は平成 29 年 4 月に 0 歳～5 歳児定員 95 名、幼保連携型認定こども園として開園しました。開園当初、園庭はあるものの住宅街の一画にあることから遊びのスペースも限られ、子ども達がのびのびと遊べる遊具の設置や備品が揃っておらず、外遊びや室内活動の充実を図ることが難しい状況でした。近隣の公園に出掛けたり、簡易的な物で遊びの充実を図ろうと試みましたがバリエーションに乏しく、限界を感じていました。

子ども達の体力・運動機能向上は日常の生活経験の積み重ねが何より大切である事と考え、様々な遊びの展開が図れるように発達段階に適した遊具、運動用品を購入させていただきました。乳幼児期に大切な身体能力や運動機能、身体のコントロール能力を養うことを目的に子ども達と『ごうのめわんぱくだん』を結成し、子ども達が日々楽しく体を動かしたくなる環境づくりに努め、運動遊び、サーキット遊びなどを取り入れる試みを始めました。

2. 具体的な実施内容

【朝の運動遊び】

3・4・5歳児、ステップハードル、平均台、玉入れ、カラー積み木を使いサーキット遊びの展開。様々な組み合わせをしながら、走る、跳ぶ、渡る、など次の動作に繋げる体の使い方を身につけていく効果を実感しています。狭いスペースや保育室、ステージなど工夫しながら遊び感覚で取り入れ、継続していくことにより子ども達が出来ようになった動作が多くなりました。また子ども達から工夫したサーキットコースの提案も出るようになり、いろいろなコースを作り楽しんでいます。



- ・ステージを利用して、いろんなものを組み合わせたサーキットコース。

- ・縦割りのグループごとにステージから廊下、保育室を使つての運動遊び。両足ジャンプが上手に出来るようになりました。



- ・平均台渡りはバランス感覚を養います。自然とやれる子の真似をしながら自分でも挑戦してみようかなという気持ちになり挑戦。苦手意識がなくなり、自分の力として身体の動きを習得していけるようになりました。



- ・まだ平均台が難しい子は、スーパーホーミング渡りで足裏から感覚を掴みながら渡ります。柔らかい素材なので小さい子にも最適です。

【運動会の一コマ】

○秋晴れのもと『ごうのめわんぱくだん大運動会』を行うことができました。



- ・忍者のように軽やかに！！
リトルコーンを使い、忍法ジグザグ渡り

- ・頑張れ！頑張れ！あと少し
お母さんがお出迎え



レインボートンネルくぐり



- ・みんなで心をついにいろんな技に挑戦したバルーン！！
青空の下で気持ちよかったね。たくさんの人に応援してもらいました。
みんなで力を合わせれば難しい技もできることがわかったよ。



赤勝て！白勝て！狙いを定めてたくさん入れられたかな？
お父さん、お母さんも負けないぞ～

【自由遊びの中で】

○鉄棒

開園当初、園庭に設置されたのは砂場と遊具ただ1つでした。鉄棒が園に設置されてからは、小さい子から年長児まで大喜びでぶら下がりや前回りを楽しんでいます。子ども達同志、前回りや逆上がりをお互いやって見せたり、大きい子が小さい子にやり方を教えてコツを教えて応援してくれています。逆上がりの練習も盛んに自分から挑戦する姿も頼もしく、優しい心も育ってきています。



先生 見ててね！



・逆上がりの練習。やってみるね！それ！



・そうやるのか～ やってみようっと！

○スーパーフォーミング（ソフト積み木）



自由遊びの中で子ども達は気の合った友達と遊びの共有を図ります。いろんな役になりきったり、「〇〇ごっこしょう」と自分たちがイメージした遊びの主人公になります。遊びの中から自分で考える力、想像力、感受性が豊かになっていきます。

【お家ごっこ・基地ごっこ】

マルチパネを友達と力を合わせて組み立て完成させます。どういう形にしたいのか考え、相談しながら形にしていきます。小さい子ができなくて困っていると大きい子が応援に駆けつけてくれます。



3. その成果と評価

運動遊びなど日々の遊びの中で取り入れながら継続して行っていくことによって、初めは躊躇したり出来ないからやらないという子もいましたが、教育・保育計画から子ども達が自ら楽しんで、自分から挑戦したくなるような環境づくりに努めました。年齢が上がるにつれて、子ども達の出来ることも増え、ちょっとしたきっかけからコツを掴み運動に対する苦手意識がなくなり、恐怖心も克服しながら運動への自信や意欲も身につけてきました。小さな自信の積み重ねがいかに大切なことなのか、子ども達が自分たちから体を動かしたくなるような環境設定の重要性を感じました。また、遊びの中でも小さい子は大きい子の様子を見て真似ながら学んでいく姿もありました。今後も子ども達が「楽しい！やりたい！」という気持ちが育つような遊びや運動遊びを行っていきたいと思います。

4. 今後の課題と展望

助成していただいた備品を様々な活動に取り入れていき、子ども達の体と心の育ちを大切にしていきたいと思います。限られたスペースの環境でも工夫次第で様々な取り組みや活動ができ、毎日の小さな積み重ねが少しずつ大きな自信へと繋がっていくことがわかりました。子ども達の心と体が大きく作られていくこの時期に、成功体験を積み重ね、たくさん経験することが大切であり、子ども達1人ひとりの頑張りを認め、自己肯定感を育てていくことが私たちの大きな使命であることを改めて感じました。

今後は、今までの活動を糧に、ただ元気に遊ぶ、体を動かし発散するという考えではなく、子ども達が自発的に体を動かすためにはどうしたらよいかを常に話し合っ発達に応じた計画を心掛けていきたいと思います。

我が園の基本理念『輝く太陽のように！』ここで出会うすべての人が、共に育み合うふれあいの場所となるよう、地域社会を明るく照らす、太陽のような存在であり続けられる

よう子ども達や保護者の方と手を取り合っていきたいと思います。みんなが笑顔になれる
大きなプレゼント、ありがとうございました。大切に使い続けていきたいです。

以上